

泉 清 事 第 5 号
令和6年4月4日

泉南市男里浜区
区長 和田 公 明 様

泉南清掃事務組合
管理者 山本 優 真



男里浜区役員との会議の議事録について（送付）

時下、ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、先日開催された下記の会議について、双方が確認した議事録を別紙の
とおり送付させていただきます。

記

1. 令和5年11月1日（水） 男里浜区役員と正副管理者との懇談会
2. 令和5年12月18日（月） 男里浜区役員と構成市副市長との協議

男里浜区役員と構成市副市長との協議議事録

◇日 時 : 令和5年12月18日(月) 13:25~14:45

◇場 所 : 泉南清掃事務組合 3F 会議室

◇出席者 : 浜 区; 区長ほか6名

当組合; 阿児副市長(泉南市)、三ツ石副市長(阪南市)、稲垣事務局長、川村事務局次長、
古木事業課参事、栗阪事業課長

《開会》

《参加者紹介》

《協議》

(浜区) 先月は会議をもっていただき、本日も忙しいなか来ていただきありがとうございます。先般より話をさせていただいたのは、温水プールをどうするかという問題であり、この温水プールができた経過は、昭和56年10月から浜区に対して健康施策ということで最初に出て、昭和60年の平島管理者あるいは令和元年、2年の竹中管理者が「温水プールに関する検討も行い、浜区と共存共栄を十分協議する」旨の回答をいただいて今日に至っている。我々の地区については、この清掃工場があることによつてのお願いを協議しながら、浜老人集会場、温水プール、ゲートボール場も建てていただいた。この大きな3点が、補償としてやっていただいたことは事実である。

今問題にされているのは、この本体を建て替える中において場所はプール跡に建てるということだが、このプールは我々にとっては、この清掃工場が無くなるときまでは、プールとして存続していただきたい。来年5月にプールが閉鎖するというのが公表された。本体の工事自体も定かでないのに、プールを閉めることについてはいささか問題があると。本体工事を施工するにあたってプールを仕方なく閉鎖するのなら分かるが、まだ本体自体がいつどうなるか分からないときに、プール自体を閉めるのは問題である。もし、プールを閉鎖するのであれば、それに代わる代替えを我々は要求している。

それについては、もう2、3年前から本体の建替計画が出た時点でどうするんだという問題で我々は認識して事務局に問題を提起したと。その中でコロナがあったためになかなか話が前に進まない。また、この計画そのものが前を向いて進んでいなかったのか、あまり公表されていなかったのか、どうしようもないということで、事務局としても返事のしようがなかったというのは確かだと思うが、それはそれとして、我々が要求しているものについて紙面で回答するよう何回も依頼している。それにもかかわらず、今こうなっていると、紙面に書いたものが何もなかった。先月やっと両市長が来てくれて話をしたわけである。その時の会議でも、具体的な何らかの施策を持って来てくださいと、そうでないと会議を持たないというところまで話はなっていた。と言っても、具体的にどうやっていくのかが見えないので、本当は会議をボツにしたかったが、あえて参加した。その辺りを汲んでいただき、我々が出している要望書は全部読み込んでいただいていると思うが、前回の会議においても次元が違う見解、その辺りを我々はプールだけをとりえて話をしているが、プールが無くなるのは、清掃工場自体が無くなる、その時初めてプールが無くなると。だからプールだけを単独で潰すのであれば、完全に別の代替えをやってほしい、そういうことを言っている。

このプールができたのは、建て替えや増強という話があるが、歴代の市長あるいは管理者の方が、話を

した中においてプールは存在して現実に動いているということ。

前回の話において、プールを運営している尾崎スイミングスクールとの契約が切れるからという話だが、契約が切れたら切れたでいい。昔みたいに直営の者を採用して運営すればいいはず。最初はボーリングという話だったが、先が見えていないのだからどうなるか分からない。そういうことであれば、建て替えが完全に決まるまでプールは直営で運営すればいい。もし潰すのであれば、具体的な代替を示してくれと、そういうことを言っている。我々は同じことを話しているが、何らかつて話は出てこなかった。答えもなければ書面でも口頭でもない。稲垣局長とはいろいろと話しているが何もなし。これは事務組合だけが悪いわけではないと思う。両市はどう考えているのか。話し合わないことには、話し合って我々に提示してくれ、これすらない。来年の5月に閉じるということは決定か？

(浜区) これに至るまでに川村次長が来て、これまでのことを整理して我々もいろいろと聞かれた。そのことは…。

(次長) 報告はしている。

(浜区) 我々の方も聞かれたことの整理もしたところである。何を聞かれたかということ、最初に建てる時には協定書があったと。今の物に建て替えた時に協定書があるのかないのかと聞かれたので、我々も調べたが、最初の時のような協定書はなかった。そちらも調べた結果ないということだったか？

(次長) なかった。

(浜区) その代わりに公文書でいろいろとやり取りをした結果、3点セットの合意がなされていると我々も確認した。3点セットの一つ目は、浜区民センターの建て替えと建て替えに伴う維持管理。維持管理に関する覚書、これは添付資料で出しているが、両方の市がお金を出して建て替えると。建て替えた後、集会所の維持管理に要する経費は、年度ごとに地元男里浜区代表者、泉南市、阪南市及び泉南清掃事務組合が協議の上決定し負担するという交わしたものがある。二つ目は、福利厚生、環境整備に関わって、温水プールを造るという合意がなされた。三つ目には、その横にある運動広場、結局ゲートボール場になったが、今は職員の駐車場に使われている。この3点セットで合意がなされて我々も了承し、協定書はなかったが、この種の覚書が交わされて現行に至っていると我々も調べた。

今日の協議は温水プールだけに絞りたいが、最初の維持管理については、まだ協議中である。なぜこういふことを言うかと言えば、前までの局長は毎年初めに「各種の要望はないか。」と聞きに来てくれていた。小さな要望は泉南市の担当部局がやるが、大きな要望に関してはこちらでさせていただくと聞きに来てくれていた。ところが、今の局長になってからはそういうかけらもないということで、やっぱり覚書どおりやってもらわないとだめだと要望に出してきた。今日はこれは置いておいて、今後この件については協議したいと思っている。

三つ目のゲートボール場、この件に関しては、そちら側から転用したいという出された書類がないかと我々も調べてみたが、その書類はない。多分、何代か前の区長と局長とで「職員の駐車場もないので貸してくれ。」「ああ、いいよ。」という話になったんだろうと思うが、その書類がないので、やっぱりこういうことは文書確認が必要なので、職員駐車場に貸してくれという文書を出してくれという要望は出してきた。いまだに文書はもらっていないので、このまま放って置くのはあかんだろうということで要望してきたところ。早く文書上で処理して、我々は使ってくれて結構と言っているのだから、後は文書上のそういうはっきりとしたものにしたいと。これは今日の課題ではなので置いておきたいと。

今日の課題は、温水プールに限って話をしたい。前回、両市長と話をし、議事録もいただき、いわゆる

例示をいろいろされたということ。後に関しては、詰めていってくれという話だった。どういう例示がされたかという、現行の焼却場の問題だと考えている。さっき言った三つの問題が済んでから、次の建て替えにはちゃんとした協定書を作りたいというのが我々の意向である。その協定書作りに入る前に、この3点を解決してくれという話。解決の仕方は、泉南市長からいろいろ例示されたが、温水プールを潰すのだから温水プールを建てればどうか、こういうことも考えた。二つ目に、体を動かせるような室内でスポーツができるようなスペースはどうだと例示された。それは新炉建設に含むのではなく、別予算にしたものを例示していただきたい。これも、両市長との懇談の際にも要望した次第である。今回、こういうことがあると例示を出していただきたい。我々もそれを基にして考えていきたいということでお伺いしたわけである。

(阿児副市長) 冒頭、和田区長から話があった中で、新しい清掃工場がまだだいぶ先に完成するという中で、具体的に工程がきっちり決まったものがなく、地元浜区に工程の案を示されていない先に来年の5月末にプールを開めるという話があると。これはなかなかそういうわけにはいかないと、そのとおりだと思う。その原因は我々にあるのだが、まず浜区の立場から見ると、これを建て替えるという話があるのなら、こんな工程でいつ頃になると。そのためには、逆算していつ何をしないといけないということになるという中でプールの除却の説明があって、いつ閉めないと間に合わない、本来ならさせていただかないといけないはずである。本体の内容がまだ十分決まっていない段階であり、工程がきっちり引けない中で、ずるずると何も言ってこないなど不安、心配になっている状況に至っているのは大変申し訳ないというふうに思っている。

そういうことからすると、工程が見えない中でプールの廃止だけを先にやるということ自体が、今の2代目の清掃工場が建ったときの補償の3点セットの一つにプールがある中で、どんな工程になるか分からないがプールだけ先に廃止させてくれというのは通らないだろう。だから浜区としては、プールを先にしてくれないと不安で仕方ないという気持ちになるのは重々理解している。

(浜区) 最初聞いた時は、来年の6月以降にボーリングにかかると。地質調査、こういう話が出てきた。ちょっと待ってくれと。本体がどういうふうに動くか分からない、その中において6月以降に地質調査に入ると。プールを潰してやると。だからおかしいと。現実には3点セットの一つでありながら、まだ本体の動きが決まっていない中において何も説明がない。いやプールだけは先に潰すんだと、あそこでやるんだと、そういう話だろう。我々とすれば、3点セットの中の一つのプール、どうしてくれるのかと。こう言うのは当たり前だろう。

(阿児副市長) 私もそのとおりだと思う。その上で、まだまだ先の話の中でプールだけ潰されたら、新しい工場ができた時に、2代目の工場の補償内容として3点セットがあったわけだが、今度3代目ができる時に何の約束もなく先にプールを撤去されて、できたときにどんな補償をしてくれるのか分からない中で、プールを先にどうぞというわけにはいかないと話、おっしゃるとおりだと思う。

一つ原因としては、新しい工場の施設の規模や性能、具体的な内容がまとまっていない中で、工程が引きづらいうちで情報をお伝えするのが遅れているのは先ほど申し上げたとおりである。そうすれば、なぜ浜区から要望をいただいている中で、組合側からこんなのはどうかと話をできないのはなぜなのか私なりに考えたところ、捉え方で趣旨が若干変わるかもしれないがあえて申し上げると、プールは2代目の工場の補償だと。だから3代目の補償とは切り離して、2代目の工場のためにやった補償を、それは3代目と切り離して補償をすべきだというのが主張のように受け取っている。先月の浜区と正副管理者との話の中で、

水野副管理者が複数にわたって発言をしているところが会議録に残っていると思う。それをわかりやすく言うと、2代目の補償は2代目の補償。プールが撤去されるにあたって先にそれを解決しましょうと。それとは別に、3代目の建設に当たっての補償は別だということになると、我々の基本的な考え方は、隣接する浜区に、清掃工場を運営していることに対する感謝の気持ちを表す意味で補償をさせていただいている。ここに焼却施設があることに対しての補償である。決して1代目の補償、2代目の補償という意味ではない。ここに1代目の工場があり2代目に建て替わった。2代目の工場があるがそれを建て替えないといけない必要性が出てきている。こういう中で、1代目が2代目に建て替わる時に、1代目の補償とは別に2代目の補償を、3代目の時は3代目の補償を別にやるという考え方は我々は持っていない。ここに焼却施設があることに対してどういう補償をするか。還元施設を設けるかという表現になるかと思うが、その認識が大きくずれていることが、この話がピタッと一步も前に進まずに、何らかの話も組合からされていない原因の一つがそこにあるという気がしてならない。

(浜区) 新炉ができた時にそういう問題を全部解決しようというのは、おかしい話である。今現在、補償するものが既に存在する。これが始めからない、3代目の時にそういう話が湧いてくるなら補償があるというなら分からないでもないが、今現状としてプールという施設が、我々や市民のために存在する。それを潰す、この時点の補償は、どこで補償するのか。

(阿児副市長) おっしゃるとおりである。そうすると言葉を変えると、プールを無くすにあたって、2代目がまだ10年弱存続し、その後3代目の工場が稼働しだす中で、プールが無くなってしまふとなればその補償をするのであれば、ここに清掃工場があることの補償について、プールが無くなることについて代わりに補償するということは、2代目の補償に限定して別にするということは論理的に出てこない。

(浜区) その点に関して、とりわけ阪南市の市長がそういう主張をされた。最初に作る時に協定書があった、この協定書をチャラにして2代目ができたのではない。最初に交わした協定書は基本的に生きていて考えている。もう実現したものも当然ある。あの時、環境整備というのが大きく謳われていた。ここの環境を良くしていこうと。具体的には、大里川の環境整備や水門の設置、男里川の遊歩道、山手にある天神の森、そういう環境整備をやりましょうと。あと地域の福利厚生ということで、一番最初に建てられたのは保育所併設の木造の自治会館である。別のところに行くのではないから、次に建て替える時に付け加わったのが、3点セットの合意だと考えている。次に建て替えたから環境整備はもういいでは困る。ここの環境をよりよくしていただかなければならないと我々は考えている。

だから、最初の木造の自治会館を潰して今のものに建て替えてもらった。保育所が無くなったから今の浜保育所の所に、これは泉南市がお金を出してやったものだが、これを建ててもらった。これは引き継がれているものだと考えている。

(阿児副市長) いろんな環境整備のきっかけは、地元区の要望が端緒になっているとは十分理解しているが、例えば大里川の水門のポンプの増設や緑道整備についても、これは補償ではない。市の一般施策でやっており、決して2台あるポンプを3台に増やせというのを、市としては補償という理屈でやっているというつもりは全然なく、必要だからやっている。逆に言うと、ここから清掃工場が無くなったら大里川のポンプを3台から2台に減らすかと、そういうのはあり得ない。それはなぜかと言うと、流量や排水能力、集水面積を計算したうえで、増強が必要だという行政判断のもとに増強しているわけである。決して補償ではない。もちろん、端緒は地元区から正しい事実認識をしないと指摘や指導をいただいた中で、市としてもきちんと調査検討して施策に反映させていただいている中でできているわけである。

(浜区) 今の発言は、副市長としての発言ではなかろうかと思う。一番最初の協定書を是非とも読み返していただきたい。読み返していただければ、今のような答えが返ってくるようには思えない。その認識の違いは置いておくと、それに付け加わってきているというのが我々の認識である。次に新しいものが付け加わってくると考えていただきたい。3代目に関しては、協議をしていきたいと思っているが、2代目の問題というのは、先ほどの3点セットの問題だから、これはぜひ解決していただきたいということで要望している。

(阿児副市長) 要望については、正確に理解しているつもりである。2代目の補償と3代目の補償を別にやるべきだという地元区の考えの背景は、まだまだ先の10年も先の3代目ができることがどうなるかわからない中で、先に来年6月にプールを廃止するというので、2代目の補償が無くなってしまうと。これから先2代目がまだ10年も稼働する中でという、極めてシンプルでわかりやすい要望だと思っている。

ただ、それと2代目の補償と3代目の補償とがまた別だというのは、必ずしも論理的にはつながらない。我々としては、ここに焼却施設があることに対する感謝の気持ちを表すために補償をしているので。例えばプールが無くなるのであれば、仮にプールを建て替えようとしたとすると、それは2代目の補償でありなおかつ3代目の補償として建て替えるはずである。そこでいや待てと、それは2代目の補償だから3代目のことは言わないでと言われても、我々としては逆に、先ほど浜区が10年も先の、工場がいつできるかわ見えない中で、来年5月末にプールだけ閉鎖されることについては不安でならないという考えがスタートで今の要望があると十分認識しているが、我々としても、プールの代替措置を具体的に補償で決めてくださいと、それは2代目の補償であり3代目は別ですよと…。

(浜区) だから言ったが、何代目であろうと関係ない。要は今現在補償としてあるプールを潰すということだから。この時までずっとあるものが、10年先かわからないがこれを無しにして同時にやりましょうかと、そういう話はないだろう。だったら今まで言っていた5月の閉鎖はないとはっきり言えばいい。どうなのか。

(阿児副市長) ここで若干寄り添いにくい考え方の何というか…。

(浜区) 過去の補償を協定に基づいて今まであったものについて、それ以上のものを求めるつもりはない。過去の補償をそのまま続けていただいたら一番いい。ただ、それが続けられないと。10年先の建て替えに関して今の時点でプールを壊さないといけなく、それについてちょっと考えてくれと言っている。

(阿児副市長) 今、副区長がおっしゃった内容は、きわめてシンプルでわかりやすい。ただ、若干、それは2代目の補償だと言われると…。

(浜区) 補償という考え方を盛んにおっしゃっているが、例えば大里川下流域水門付近の浚渫工事について、当時の泉南清掃事務組合管理者の平島さん、これ誰がやるかと言えば泉南清掃事務組合が、これは泉南市の昭和62年度予算により執行すると。どこがお金を出してくれてもいいが、泉南清掃事務組合が責任を持ってやると回答している。一番最初に清掃事務組合が、ここの環境改善をやりますよという協定書がずっと生きている。それに次の3点セットや今度何がどう乗っかってくるかわからないが、過去の協定に基づいたもの、これをきっちりやっていただかないと困るわけである。

(阿児副市長) この場合は温水プールの件ということで話を戻すと…。

(浜区) 温水プールについては、是非とも予算を伴った例示を出していただきたい。

(阿児副市長) 我々としても、その点を前向きに進めて行きたい。その進めるにあたって、共通理解に立つ必要があるが、プールの代替補償は2代目の工場の補償であって、3代目の補償は別だということを前

回 11 月 1 日の浜区の発言の中で複数回その趣旨が出ている。ここが違うから、どんな内容で説明させてもらえばいいかと言にくいのはそこだと思う。

(浜区) 何回も言っているが、過去との経緯においてこのプールができた。これを潰すのなら先に代替えとしてやってくれと。プールは潰さないならそのままいいし、3 代目本体を建て替える時に、それはそれで別件で協議したらいい。ここを潰すからどうしてくれるのかという話だろう。

(阿児副市長) 今の 2 代目は今後 10 年続いて、3 代目は 10 年先からスタートするということの…。

(浜区) 潰すという時点で、それはきっちりしてもらわないと話にならないということ。

(阿児副市長) 潰す時点でその話をさせていただくに当たって、それは 2 代目の補償だと。3 代目はまた別だと、そこで釘を刺されると前に足が進まないわけである。

(浜区) 三つの協定があり、そのうちの一つが無くなるのだから、それなりの何かを。プールは福利厚生という目的で作っていただいたものだから、それに代わるものをこの区域に持って来ていただいたら何の問題もない。

(三ツ石副市長) 前の時に市長も何度も申し上げたと思うが、新炉の補償と一緒に協議しませんかと。その意味は何かと言うと、プール自体 2 代目の補償だと考えている。したがって新炉ができた時に 2 代目が閉まる、そうすると 2 代目の補償も基本的に無くなると我々は考えている。その代わり閉まった時点で 2 代目の補償は無くなって 3 代目の補償がスタートすると思っている。

(浜区) それは違う。

(浜区) 3 代目やる時にプールが閉まりましたと、その時にプールも全部代替えとして上げてもいいということか？

(三ツ石副市長) そういうこと。

(浜区) その間プールは営業を続けると…。

(三ツ石副市長) プールかどうかは別として、2 代目の補償は 2 代目をもって終わって、3 代目の補償としての協議はしたいと。

(浜区) そういう言い方をするのであれば、3 代目ができるまで今のプールをおいておいてくれ。

(三ツ石副市長) ただ、工事の関係上、プールを先に閉めさせていただく可能性があるのですが、こういう話になってきていると思う。同時であればそういう話ができるのだが。

(浜区) 3 代目ができる時に、このプールは 3 代目として合意しますと 1 筆書き入れるか。

(三ツ石副市長) それは 2 代目の補償と 3 代目の補償をどうかなるかだ。3 代目の新炉の地域へのご迷惑をかける影響がどうなのかを考えた上でないと説明がしにくいところがあるので、どれくらいの補償になるのか整理した上でする必要があるのではないかとということ。

(浜区) 3 代目が、例えば阪南市に造ると。それでもう終わりだと、だったらもういい。2 代目があと 7 年でクローズした、温水プールも結構です、こうなる。そうしてくれ。我々はもう言わない。もう 2 代目で終わりで、何も 3 代目に引き継いでとは言わない。

(三ツ石副市長) そう捉えられたら、私が余計なことを言って申し訳ない。全然違う話で、補償の整理として言っている問題であって、何も 3 代目を造りませんか、それはお願いしないといけない話なので…。

(浜区) そう言っていただいたらすべてクリア。我々ももう終わりで後はきれいに畳んでいただいたらいいわけで、そうしてくれたら地区の住民は万々歳だ。

(浜区) 細かいことを言うんだったらそうしてくれ。

(三ツ石副市長) 細かいことではないのだが…。

(浜区) 阪南市の桑畑に持って行ってくれたらいい。もうそれでいい。一番簡単だ。

(三ツ石副市長) そういう意味で言ったのではない。

(浜区) ここの環境整備や福利厚生、そんなもの何もなく構わない。終わりにしよう。他所に行ってくれたら浜区は何も言わない。

(浜区) 補償云々の話が出てきたのは、ここで焼却場を建てるからで、形としてまとめたのは過去の今までの協定である。

(三ツ石副市長) 私が言いたかったのは、2代目の補償については我々も認識して…。

(浜区) それが理解できないなら他所へ持って行ってくれ。

(浜区) ここで3代目云々をやるんだったら、2代目のもちちゃんと引き継いでもらわないと困るという意味がある。

(三ツ石副市長) 私が言いたかったのは、2代目が引き継がれますよ3代目に。だから、3代目の議論をセットにしないと2代目の議論ができないという話を前回市長がされたんだと理解している。

(浜区) 3代目の話をするまでに、2代目のものを解決してと言っている。解決の仕方、すぐに解決できるものが3点セットの三つ目、書類を持って来てくれたらOKを出すと。これで三つ目はすぐ解決、我々がOKと言っているのだから。とにかく解決できるものから解決していってくれということを言っている。

(阿児副市長) 3代目ができる10年も前に2代目の補償が無くなってしまうと…。

(三ツ石副市長) 私はそういうことを言っているのではない。

(浜区) プールのある位置に新炉を建設しようとするからプールを潰さないといけな。プールがある位置と別の位置に建ったとすれば、プールは潰さなくてもいいだろう。

(阿児副市長) たとえ話で恐縮だが、ここの土地が倍、敷地があったと。プールがあつて、2代目の工場が建っていると。敷地が倍あつて、こちら側に2代目を稼働しながら3代目の工場を建てますと。プールが2代目の補償としてずっと建ち上がるまで補償を続けますと。3代目が稼働するときに2代目は終了しますと、プールはそのままですと。そのとおり。なぜかと言うと、ここに清掃工場があることに対する感謝の気持ちでプールがあるわけで、たまたま場所的にやりくりが出てきてしまったので、話がややこしくてタイムラグが10年ほどあると。仮の話で恐縮だが、横に新しい工場が建てられて、その後、こちら側が動くときにこちらが停止して、するとプールはずっと補償のまま。2代目の補償から3代目の補償に移るだけの話だから。

今、状況が違うのは、場所が狭いからプールを撤去しないと新しい工場がそこにしか建てられないからと、そこでタイムラグが10年ほどあるじゃないかと。それをどうするかというのが浜区の懸念であり、素直な単純で明快な気持だと思う。それに対しては、プールの代替措置は、現行の10年間プラス10年先からの3代目の清掃工場と合わせた補償を今交渉させてほしいというわけである。ところが、11月1日の会議でもそうだが、現実にタイムラグがあると。それなのにそれを一緒に話をしてくれとは現実的ではないだろうという主張だと思う。ただそれは、現実はどういう形で合わせていくかという形で我々も交渉するし、2代目の残りあと10年、それと3代目に向けての新しいプールの代替措置を3代目も含めて今、中身の話をさせてくださいという話。ところが、そこで2代目は2代目、3代目の補償は3代目という話になると、そこで話が止まってしまう。

(浜区) 副市長のおっしゃるとおり、この敷地がもう少し向こうまで拡大していて、そこに3代目を建て

る、そうするとプールは全然壊す必要がないと。そうするとプールは、リニューアルして引き続き10年まだまだ行くだろうから、そうすれば全然問題はない。現実には潰れるわけだから、どうするのかと。隣に3代目が造られたと想定して、あれをどうするかということで考えましょうという主張は、それは分らない話だと思う。

(阿児副市長) 我々として特に丁寧に考えないといけないのは、3代目ができる10年も前にプールを無くすことに対してどう考えるのかということに答えを持って行かないといけない。そこは当然、我々として考えなくてはならない。ただ、構成市同士でも協議しているが、それにあたって、これは2代目の工場の補償だから2代目の補償で考えてくれと。3代目はまた協議するときに別の話をしましょうと言われると、大変つらい。だから、それは一緒だが、10年前に潰すのだから当然その間の補償もセットで3代目の話とセットでやってもらわないとだめですねと、そうなら分かる。そこだ。だから単にニュアンスの違いなのかなという気はしている。

(浜区) 要はプールが無くなるという10年先、この間をどういう補償をしてもらえるのか？

(阿児副市長) 2代目の補償という意味ではなしに、ここで清掃工場が稼働し続けている…。

(浜区) プールを造るスペースがなければ、それに代わる福利厚生施設、あるいは何らかの補償を考えてくれと、そういうことで良いのか。ということは、今現在潰すプールは10年先であろうがこの分については別件で補償しますと。このプールが潰れた時点で、新しく新炉が建設されるとその時に潰したプールも建ててほしいという要望もあるかもしれない。それ以外の要望もあるかもしれない。そういう格好でいいのか。

(阿児副市長) プールは一旦撤去しますと。その代わり新しいのを場所が分からないが別に建てましようと言った時に、プールは10年では無くならないし悪くもならない。それなら10年しか経っていないプールがここにある形になるので、いやまだこれ10年だから2代目の補償が10年と11年目からこれを3代目の補償として考えていただいていいんですねと言った時に、いやそれは違うと言われると止まってしまう。

(浜区) それはそういうことにはならない。

(阿児副市長) そこだけ共通の理解がさせていただけるのであれば…。

(浜区) それはちょっとおかしい。言葉のあやだ。

(浜区) 一番最初の協定書に基づいたのは、次に引き継がれていくというふうに我々は考えている。その例が、大里川の浚渫、これは一番最初の協定書に基づいている。次に引き継がれ今も引き継がれている。だから今の温水プール、これも引き継がれていくと考えているわけだから、新たにもう一つ作れとか、二つも作れとかそういうことは当然…。

(阿児副市長) だから3代目の補償も含めて、新しく3代目ができる10年前にプールが無くなるという絵を描いているわけだから、それも含めて、それが水野副管理者が申ししていた、トータルで協議をさせていただきたいという趣旨だと思う。

(三ツ石副市長) だから、私が2代目が無くなったら無くなると言ったから変な話になったが、そういう意味ではなしに、プールがそのままってなるからそういう感じになってしまって申し訳ないが、今の清掃工場があることが続けば補償が続いていくということは当然当たり前の話だと。ただ、中身は当然変化していくと思う。プールはプールのまま行くかどうかとか、だから3代目が見えないと2代目のプールを建ててしまうと、別のところにプールを建てましよう、それにプラスアルファでまた3代目のをもう一度

建てるような議論をされているみたいになっている。

(浜区) 要は、今現在のプールが使えないということにおいての話だろう。

(三ツ石副市長) だから10年間先行して潰せば、その部分が出るのは我々も認識しているので、それと合わせてプールに代わるものが引き継がれるのか分からないが、新炉の補償という意味では引き継がれて、それが3代目にも続いていくことにはなと思うが、それをどういう形で見るかと。

(阿児副市長) 若干ニュアンスの違いだと思うが、ただ、会議録等を読むと、例えば本体は本体の問題、これは3代目を指していると思うが、温水プールは温水プールの問題、問題が違う主張をされている。

(浜区) 要は、スパンがありすぎるからそういうことになっている。返答も明確に話になっていないからそういうことになっている。

(阿児副市長) 考えを示さないといけないと思っている。

(浜区) だから我々とすれば、来年6月以降にプールを潰すのであれば、この時点から何らかの代替を要求するというのは当たり前の話。

(浜区) それは福利厚生としてずっと引き継いでいっていただきたいわけで。

(浜区) これがプールを使用しますと、営業しますと返事をすれば、今現在この話をする事はない。

(三ツ石副市長) それは先ほど言ったスペースの問題で…。

(阿児副市長) プールを閉めて新しい工場ができるまでの10年間、無くなったことに対する措置、それと3代目の補償とセットで考えた時に、今のプールが無くなるのだからプールがベストの地元区の要望ということでもいいのか、それとも他の物がいいのか、例えば山本管理者が言っていたような複合的な施設…。

(浜区) 何らかの格好でそれなりの代替を出してほしいと、それを頼んでいる。

(阿児副市長) それはプールが無くなったことに対する補償と、3代目が建ったときの補償と我々はセットで何がいいですかと、これから詰めさせていただきたいということ。

(浜区) 引き継ぐという意味でのセットね。

(阿児副市長) もっとはっきり言うと、そういう形で協議して合意したときに、3代目を建てるにあたって、協定を結ぶにあたって、それは別だというふうな、新たな意向を示すということは無しにさせていただきたい。

(浜区) 当然、合意の協定を結ぶのならば、その種の施設を引き継ぐということで十分合意できると思う。

(阿児副市長) これはこれで置いておいて別だということはない。10年しか経っていない物をそんなもの残しておいたらいい、それと3代目の補償は別だと、こう言われるとつらい。

(浜区) 正直10年後だろう。役員としてはもういない。

(阿児副市長) 誠意を持って10年先を見据えて、今の当事者である我々で…。

(浜区) なぜお前たちはその時に決めたのかと言われる。だから決められない。

(阿児副市長) 10年先に批判を受けないような交渉をさせていただきたい。

(浜区) それはそうだ。それは当然だ。

(浜区) 次の世代に渡そうというがひとつ。だから現時点で私たちが考えるよりも、若い人が考えて10年後にやった方がいいだろうと。

(阿児副市長) 10年先、3代目も見据えて、何が一番いいかという話をさせていただきたい。

(浜区) それはそうだ。

(浜区) 10年間のスパンの間に、プールはいつ閉鎖する予定なのか。

(阿児副市長) それは今スケジュール的に固まったものが、いわゆる建設資材の高騰や、その辺は11月1日に山本管理者から状況の話をしたが、そういうことがあるので、その辺を早急に固めて具体化していきたいと思う。

(浜区) 来年5月以降は、プールは営業するということでもいいのか。

(阿児副市長) それはまだ決まっていない。するかしないかは未定。それも含めて速やかに協議させていただきたい。

(浜区) 提案してくれ、協議ではなしにこうこうしますと、どうですかと。

(阿児副市長) 一番の根本の提案は、中身はいろいろと前向きに速やかにできていくと思うが、枠組みとして今日の話し合いで双方合意できたら話は進みやすいと思う。

(浜区) 基本的に3代目に引き継いでいくんだと。仮に温水プールを潰すんだから、早急に別の所にこの近辺にそれと同等の物を造るんだと。造れば3代目ができたとき、それにも引き継いでいくようなものを造るということだ。

(阿児副市長) 3代目も含めた清掃工場が立地することの補償だ。

(浜区) いつから補償がスタートするのか。それが決まらないのに…。

(阿児副市長) もちろん物理的な問題もあるので、申し訳ないが今日言っても明日建たない。その辺も含めて相談をさせていただきたい。

(浜区) それに関して、今日我々としては、具体的なこういう例があるというようなものを持って帰ったら検討しやすいのだが。

(阿児副市長) その点について、なかなか話が前に進まないのは、構成市の両副市長で話をした中においてそこかなということで、まずもってそこを確認させていただこうというのが、遠回りのようで一番近道だと思う。今日は是非そこを確認したいと思って来た。

そこはそのとおりだと、お互い認識のズレはないんだということであれば、同じ認識のもとにどういう補償内容、プールに代わる2代目3代目も継続した焼却施設立地に対する補償として何が一番いいのかという話をこれから精力的にさせていただきたいと思う。

(浜区) そういう話は、今までずっとやってきた。具体的に何か出してくれと。プールが閉鎖するまでにそれに代わる代替えを我々が最初に言ったのは、プールが閉鎖する時点でそれが使える条件で何かやってくださいと。それに対して例示を出してくださいと。

(阿児副市長) 2代目の補償の代替と3代目は別だという主張をかねてからされている関係で、そこを確認しないと我々としてもこういう内容はどうですかとは言にくい。

(浜区) 皆で確認していなかったのか。

(阿児副市長) 我々はずっと確認している。

(浜区) 最初にあった協定書は2代目になっても引き継がれているし、3代目になっても引き継がれている。

(阿児副市長) その趣旨は、清掃工場がここに立地していることについての補償である。

(浜区) その中には、例えば大里川下流云々、環境改善も含んでいるという…。

(阿児副市長) 清掃工場が立地している限りにおいて。

(浜区) そうだ。それは3代目になっても。

(阿児副市長) 2代目3代目関係ない。だから3代目は3代目と言われえろとつらい。

(三ツ石副市長) 2代目プラス3代目となると何か変な。当然引き継ぎながら変わっていくという。

(阿児副市長) 清掃工場がここに存在することについての継続的な補償と。

(浜区) 過去の補償にさらに追加して何かを要望するということは、浜区からはない。要は現状のままが一番いい。現状のままできないから温水プールを潰すと。じゃあ、新たに温水プールを浜区内に建てますと、それも一つの案である。

(三ツ石副市長) 2が無くなるから3もなくなると言ったつもりはない。そんな感じに聞こえたなら申し訳ない。

(阿児副市長) 2代目は2代目で別に予算を取って、3代目の話は別というニュアンスで受け取ってしまったものだから、我々は誤解していたのかもしれない。

(三ツ石副市長) 2は2で取ったうえで、3プラスアルファで違うものを建てろという議論をされるのかなと思ったので。

(浜区) 11月28日付で、見返り策は予算化の期限以前に確定してほしいという申込書を渡した。具体化は早くしてほしいし、それなりの予算を取らないことには、5月とずっと置いているが、それが決まらないことには予算取りしないことには何も動くことはできないだろうと、逆にお願いしている。ゼロではないのだから、5月何日付で物が無くなる。だからその時点でできるものをやってくださいと。それに向けて話し合いをしてきたのだが、何も出てこない。

(阿児副市長) その辺は申し訳ない。

(浜区) 申し訳ないでは済まないだろう。

(浜区) それに関して、山本管理者が言っていた、温水プールというのが一つの例示でされている。温水プールを潰すのだから温水プール、運動も大事だから複合的な施設、そういう例示をされていた。そういう例示が他にあれば、出していただいたら我々も考えることができるし、一歩進むだろうと。

(阿児副市長) ですので、今日はいいい機会だったと思っている。我々として誤解しかけていた。2代目は2代目、3代目は3代目で別の補償だということがなかったのもので、どういうものかいいのかということは精力的に協議させていただきたいと思う。

(浜区) だから、提案をしていただけたら…。

(浜区) ものが無くなった時点からの補償のスタートだから、それだけは間違わないようにしていただきたい。

(浜区) だから、早く提示をしていただきたいわけである。

(浜区) 逆に3代目の補償を、市はどのように考えているのか。それを出してくれば、浜区として検討させていただく。

(浜区) これまでのままで、市の方としては3代目については2代目の物を引き継ぐと考えている、特別に3代目として新しいものを補償するつもりはないというふうな…。

(阿児副市長) 我々としては、2代目3代目という認識ではない。清掃工場があることについての補償。

(浜区) 現時点でプールが2代目だから3代目に引き継いでくれたらいい。だが、3代目の補償として、そちらは何を考えているのかを出してもらわなかったら、こちらとしても検討できない。

(三ツ石副市長) 2代目のが消えるのだから3代目を出せと言うことですね。

(阿児副市長) 今日でやっと胸のつかえがとれたので早急に用意させていただく。

(浜区) こちらが言っていることを誤解されているような思いもあるので、こちらとしては新たに…。

(阿児副市長) 私も直接話ができしたのは今日が初めてなので、どうしても会議録の字すらだけを追ってしまふとこういう誤解が生じてしまうので…。

(浜区) 3代目の話はあまりしたくない。

(浜区) いやそうじゃない。こういうふうに誤解されているんじゃないかと思うので、次の3代目の時には、例えば浜区の中に大きな総合体育館でも造れという要求が出されるのではないかと、阪南市のサラダホールのような大きな会館を造れという要望を出してくるのではないかと…。

(浜区) 次にやる時には、浜区にこういうものを補償として提案したいと、まずそれを書面で出してほしい。そうでないと、しゃべるということはここを出るとすぐに飛んでしまう。そのためにも議事録を取って…。

(阿児副市長) 議事録は大事だと思う。

(浜区) だから今回言った、10年後こうなったときにこうなっていると、そういうのを書面でいただいて、それでもって我々はまた検討していく。そういうのはできるだけ早く。というのは来年の5月、これが一つの目安である。

(阿児副市長) 今日は本当にありがとうございました。双方の認識が一致して、次のステップに移ることが可能になる環境になったので、今日の獲得できた内容をきっちりと会議録に落として協議させていただく。

(浜区) 基本的に言っておくが、そういう先の話は提案はしてくれてもいいが、それをしない限り次に進まないから。ただ、浜区としてはそれがメインではない。市がそちらをやってくれと言うから言っているだけで、市からセットにさせてくれと言ったので、それだったらそれを出してくださいと言っていることだけを…。

(阿児副市長) 枠組みとしてセットでと、それは今、合意したのではないのか。

(浜区) 違う。どっちが言ったかという…。

(阿児副市長) そう言っているから…。また不安になってしまう。そこだけ今日の獲得目標として帰らせていただかないと我々…。

(浜区) それは理解しているが、どちらが先に言ったかということは、市からセットでやりたいと言ったことだけは忘れないでもらいたい。

(阿児副市長) それが合意だということ。セットでいいんだという理解が、この場で確認されたということでもいいのか。

(浜区) 当然、引き継がれるんだと。最初の協定書も引き継がれているし、3点セットも引き継がれていくし。

(阿児副市長) 一貫してここに立地しているということに対する補償、これが継続していくと、そういうこと。

(浜区) それは十分合意できていると思う。

(阿児副市長) ありがとうございます。それでは時間もまいりましたので。

(事務局) それでは今後も協議、交渉を進めていくということで、よろしくお願いします。

《閉会》

男里浜区役員と正副管理者との懇談会議事録

◇日 時 : 令和5年11月1日(水) 15:00~16:20

◇場 所 : 泉南清掃事務組合 3F 会議室

◇出席者 : 浜 区; 区長ほか6名

当組合; 山本管理者(泉南市長)、水野副管理者(阪南市長)、稲垣事務局長、
川村事務局次長、古木事業課参事、栗阪事業課長、八塚事業課主幹

《管理者挨拶》

現在、組合では次期ごみ処理施設整備事業として、泉南市、阪南市から排出される一般廃棄物の安定処理を図るため、新たな工場建設に向けて作業を進めている。

新工場は、温水プール解体後の敷地を利用して建設することから、これまでに、現清掃工場整備の補償として建設された温水プールに替わる代替案について、様々な要望をいただいているところである。これについては、具体的な回答を提示できていない状況であったが、ようやく施設の概要や全体計画がまとまってきたので、地元還元の方策について、地元の皆さんと正副管理者との懇談の場を設けさせていただいた。

限られた時間ではあるが、浜区役員の皆さんには、忌憚ない意見、提言をいただきをお願いを申し上げます。

《参加者紹介》

《組合より現在の状況報告》

(局長) 次期ごみ処理施設整備に関する事業は、令和2年度から着手しており、まず、次期ごみ処理施設基礎調査として、既存清掃工場敷地内で新しい清掃工場の建替えが可能かの調査を実施した。

令和3年度は、一般廃棄物処理基本計画や交付金の適用に必要な計画の策定などを実施した。令和4年度からは、大きく3つの事業を実施している。1つ目として、既存清掃工場の敷地内の土地や建物の大きさの測量、敷地境界等の整理を実施し、図面の作成を行う用地測量業務を実施した。2つ目として、大規模な事業を実施しようとするときに、施設の設置による環境変化の程度と範囲を予測する生活環境影響調査を令和4年度から実施中である。3つ目は、新工場に必要な諸条件の設定や、施設基本計画や全体計画の作成、建設予定地における地盤・土壌調査などを令和4年度から実施中である。

以上が、次期ごみ処理施設整備事業の現在の状況である。

《懇談》

(浜区) 今、局長から焼却場の経緯について話があったが、今日話に来たのは、本体についての話ではなくて、建て替えに伴う温水プールをどうするかということ。今問題にしているのは、温水プールである。その話は、私のメモからすると令和3年ぐらいからずっとやっている。設計をやる中においてプール跡に建て直すという話だった。そうすると、このプールが建てられた一番最初の目的が壊されている、そういう状態になりつつある。

これは、ここの歴代の事務局長、あるいは我々浜の区長、理事、彼らが一生懸命知恵を絞って、いかに仲良く互いに共有し合うという中でプールができあがったものである。そのプールを廃止するにあたって、泉南市は新しい所にプールを建てると。だからプールができるからいいんじゃないかと、こういう感覚で

話が進んでいるはず。今から作るプールと今現在あるプールは中身、目的が全く違う。あのプールは学校プールがなくなった、どこも使えなくなったからできたはず。ここを潰すからできたわけではない。もし仮にプールを潰すのであれば、代替えをやしてほしい。

それもプールが使えなくなる時点で、代替え施設を造ってほしいという要望で一番最初始まったはずである。何回も会議を進めているが返事がない。

だから、両市長が来られているが、どの辺りまで話を聞かれているのか伺いたい。

(浜区) 具体的な見返り策を提示してほしいということに尽きる。来年の5月にクローズされるのは間違いないので、それまでに具体的な見返り策、温水プールとその横のゲートボール場、あれも一緒に造ったものだから、その見返り策を早急に提示していただきたい。検討していることがあれば、今日も出していきたい。

そのお願いの文書は、10月30日付で出しているのですが、ぜひとも具体的な見返り策をこの場で提示していただきたい。

(浜区) 何回も要望書を書面で出している。最終的に言ったのは、事務局というのは、こういう会談を持つ中継ぎであって、局長自身の意見を聞く場ではないと。我々と話をしているが、局長が言った言葉が両市の言葉なのか、その辺りははっきりわからない。だから実際に局長から、どういうことで本当に話が入っているのか。それに関してどういう政策を打っていくのか、それを聞きたい。ただ単に懇談会ではない。今まで2年間待ち続けてきた。やっとコロナが和らいだ時点でどうしても詰めないといけない。プールがつぶれた後にこんな話はできない。それまでに両市の方で我々に対して、こうやりますと書面で出していきたい。

我々理事会も総会で、区民に対してこういう問題があるのでやると話を出している。ホームページを見てもらっても結構である。我々は、会議については全部ホームページに載せるようにしている。

以前、我々が先走ったのかどうかわからないが、組合からこれはホームページに載せるのは相応しくないのではないかとクレームが付いた。それ以降、こういう会議があったというだけで、中身は全然載せていない。どこにも公表していないが、みんなの頭には残っている。

だが、会議の中身を公表しないというのは、何のためのホームページか。それが正しいのかどうか、その辺りの若干の差異やクレームがあったとしても、ホームページに載せてもらっては困ると、そんな話はない。

その件については、会議はやったが中身について触れていない。内部だけの話にしている。そういうのを何年かやってきている。ちょっと考えれば滅茶苦茶な話である。竹中さんから山本さんに管理者が代わって、どの辺りまで本当に内容を把握して今日の会議に臨もうとしたのか、その辺りを聞きたい。阪南市についても全く同じ。局長が述べたことが両市の答えなのかどうか。

(浜区) それでも結構だと。局長が今まで言ったことが両市長が言ったことだと言ってくれてもいい。どこまで聞いているのか。市長が代わった段階で、こういう話があると山本市長がいつ聞いたのかということをお返答してほしい。阪南市長も同じく、いつこの話を聞いたのか、この話が何回目なのか、返答をお願いします。

(管理者) この話は令和3年度だけではなく、もう少し前のタイミングから当時の区長から出された文書も含めて読み込んでいる。昨年度の5月に市長が代わったので、前市長から私に何か直接引継があったわけではない。だが、担当からこれまでの経緯は一定説明を受けおり、浜区からの要望も読み込んでいる。

まず、私がこの場で話をするのは初めてなので、私も市議会議員だったのでごみ焼却場の成り立ちから浜区の皆さんからいろいろ訴えがあって、かなり大変な思いをされて、ごみ焼却場ができるにあたって地元の皆さんへの還元施設として温水プールができたというところはしっかりと認識している。その中で、浜区にごみ焼却場ができることに当たっての地元への還元施設であったが、前市長の時に中央公園にプールができるという話があり、プールをどうするのかと。

ここをどのようにして皆さんと話をしながら、皆さんに還元するということは大前提において、話をやっていかなければならないと私も当然認識している。

確かに具体的な返答ができなかったことは、非常に申し訳なく思っている。中では例えば皆さんが会議ができるスペースであったり、体を動かせるような屋内でスポーツができるようなスペースであったりとか、いろんなものを複合的にすることによって、それが本当に浜区の皆さんのニーズに即したもののなのかというところがわからなかったが、案出しはしていた。

今までの文書を読み込めば、還元施設であるプールを新しい施設を造るという理由で閉じるということをごちら側の都合でやったわけだから、代替案を提示すべきだという話は当然理解はする。ただし、本当に浜区の皆さんの還元施設たるものをしっかりと提案していこうと思えば、今の浜区に住んでいる皆さんがどういったものを求めているかという根源的な部分をしっかりと把握をしたいと。とりあえず健康増進の還元施設として、プールが閉まるからこれを造ればいいという話は逆に失礼かなと思っており、実際に焼却場がある所の皆さんが本当に何か欲しいのか、これだったら認めてもらえるのかというのは、こちらから一方的に提案するのではなく、しっかりとニーズを探りながらやっていく必要があると思っている。

先ほどの話で交渉と折衝という話がある。交渉はいわゆるこういった場での話。折衝は実際にどういったものがあるか。例えば金銭的なものなのか、こういう建物なのかという、これは言ったがやっぱり違うとか、いろんなものを出し入れできる。これは折衝だが、その部分は、こういった公の場ではなかなかできない。だから、その辺りはちゃんとしたものを作り上げていくために下準備の調整の場を定期的に設けさせていただき、どういったものが皆さんにとっていい物なのかということをしつくり上げていく必要があると思っている。こういった場を出し入れすることはなかなか難しい。

仮に公開するということは、泉南市民の皆さんに「なんぼでどうや」と「それはだめだ」と。それはそれでいいんだが、そうするとなかなか地元浜区の皆さんの声を政策として練り上げていくのに、いろんなハードルが出てくるというリスクがあるので、そこは使い分けて、ここから踏み込んで具体的な話に移っていきたいというのが私の率直な思いである。

当然のことながら、できるだけ早くプールが閉じてしまうまでに、できるだけ何かを、なんとなくこういうものかなというものが出てくるような努力はしなければいけないと思っている。

そういったところで、これから具体的な調整ができればと思っている。

(浜区) 山本市長は、議員時代から浜区に非常によく入って来て、地元の方の要望もいろいろと把握していた。知り合いも非常に多いわけで、そういう付き合いもあり、浜区の住民の要求をそれなりに把握しているのでは。浜区に関する要望は、提示することは少しも失礼ではないと。むしろ提示していただく方がありがたい。これまで議員として要望もつかんでおり、提示していただければうれしい。

(副管理者) 先ほど質問のあった本日の懇談の要望書については、拝見し説明も受けている。これまでのことについても、適宜、事務局から報告を受けている。もちろん受ければ意見交換もしているので、事務局が話をしていることについては、聞いた範囲のこととして対応しているものだと考えている。

このプールの問題に対して、まず閉めるのだから代替えをとという話だが、この辺も個別ではなく新炉建設に伴って閉めることなので、新炉建設に伴う補償の問題の一つとして検討していきたいと思っている。必要なこととして検討したいと思うので、地区の方から忌憚のない思いや要望をいただく必要があると思っている。

(浜区) 返事が返ってこないというのは、泉南市も阪南市もそういう話は一切していないということなのか。そちらからは一切報告はない。浜区がこういうふうに持ち上げたら動くだけ。ホームページに上げるなど言っておいて、そういう話すら上がってこない、浜区に一切言わない、情報を流さないということで信用しろというのか。

(管理者) 気持ちは分かる。要望書をいただいておりますが、今現在の段階で答えを出せないなら出せないという文書を出すべきであったと、申し訳なかったと思っている。そこは、ちゃんと気を配らなければいけなかった部分だと思う。文書となると堅苦しくて、どういうふうに書いたらいいのかわからない部分があるが、文書でなかったとしても何らかの返しをすべきだったと思う。初めてこういう場に参加させていただき、改めて具体的な話に踏み込んで聞ければと。

確かに私が市会議員の時代は、浜区の方と話をする機会はたくさんあったが、その時は市会議員として浜区の皆さんが抱えている課題の部分を、どのようにして解決できるかという目線で対策をしていた。市会議員をしている中で、ごみ焼却施設の今までのいきさつの話は聞いたことがあるが、プールがなくなるから代替案がどうか、そういった具体的な話は聞いていないのが正直なところである。

(浜区) あのプールがどういう経緯で建ったのか、それが使えなくなるときに我々に対して「どういう代替を考えないといけないか」。そういう思考が巡らなかったのか。

(管理者) 今までの経緯があるので、新炉の建替えにより以前のプールが使えなくなることがあるので、この部分の還元をどうするのかというのは、大前提として考えていかなければいけないと認識している。

(浜区) 要望を出して、そちら側でいろいろと検討してきたと思うが、メモの一つでもいただければ一生懸命検討してくれているということがわかりよかったのだが。検討していることはわかるが、わからなければ疑問、不安、不信が生まれるので、そういうことは避けていただきたい。

一つの還元として福利厚生的なもので、スポーツ云々ということを示唆していただければよかったと。

(管理者) いわゆる交渉というテーブルには載らないが、プレストから一歩踏み込んだ段階で、「これはどうか」「やっぱり無理だな」とこれを少なからずやってきた。この辺の部分、今こういう話をしているということを事務方と区の役員と共有しながら、「そう言ってもこっちのほうがいいだろう」「皆こんなを思っている」とかをここで言わせていただきたいと思っている。

(浜区) 今日こういう形で会合を持っているのは、我々が辛抱がたまらなくなったわけである。いつまで経っても埒が明かないと。日付を切って書いたものをくれと。これまで書いたもので返答をもらったことはなく、口頭でやり取りしているが、今のままだと下手をするとプールが無くなった後にまだ交渉を続けて行かないといけない状況になりかねない。それは困るということで、今月末までに文書で回答をとという文書を出したら、局長としては文書で回答できないので、市長も交えての話し合いをしようということで今日集まっているわけである。

過去2年前から折衝レベルではないが、とりあえず話し合っているが、その連絡が市長レベルでどの程度いって、それに対して何らかの指示をしたのか、その辺を聞きたい。

(管理者) 今こういう状況になっている、こんな形で要望をいただいているという、その辺りの共有はしている。

(浜区) 具体的な折衝のためにキャッチボールをしようというのは、大いに賛成である。そのキャッチボールをするための何らかの動きをしていたのかどうか聞きたい。ただ単に聞いて「分かった」で済ませたのか、「これについては、こういう回答をしておいてくれ」ということを言ったのか。時間的に半年前のことではなく、2年間の間に清掃組合と話をしているのは1回、2回ではない。その間が無駄になっているような気がし不信感がある。管理者としての内部的な意思疎通がしっかりしていれば、回答がもっとポンポンと返ってきたと思う。

(浜区) 先ほどの発言の中で複合的な運動施設と言っていたが、例えば折衝の場でそういう提案があれば、こちらで具体的にいけるのではないかと話ができる。ボールの投げかけを是非ともしていただきたい。

(浜区) どちらから先にボールを投げるのかと言えば、清掃組合から投げてほしいと思う。無くすのは清掃組合だから。

(浜区) 去年のお金の話について、市長はご存じか。

(管理者) 報告は受けている。

(浜区) その結果の話は、浜区に報告はなかった。どちらが投げたかは知らないが、結論すら言わない。それは両市長の指示か。

(副管理者) 私は竹中さんと一緒にここへ座ったことがあるので、その時代から、今2年間の話もあったが、新炉建設をせざるを得ない、延命には限界があるということで、建て替えが始まると我々としてもその準備に入っている。その間、地区の皆さんにおいては、無くなってしまっただけで新しくなるのだから、当時、交渉してプールを含めてできた、それがどうなるのかという、その辺の不安は当然だろうと思っている。

ただ、返しが遅くなっている理由の一つは、建て替えに様々な手続きを踏んできているが、新炉の全体像、新しい炉が時代に応じてどのような機能を持たせていくのか、それが地域の皆さんにとって、今の炉と違ってどういう影響になるのか、スペース的にどうかとか、全体の確定したものが我々もつかみ切れていない状況が続いてきている。その中で金銭的なものがあったことは聞いているが、金銭的な解決だけではなくて、そのほかのことも含めて議論をしなければいけないと思っているので、事務局はその意を受けたのかもしれないが…。

(浜区) 返答するなら分かるが、キャッチボールをしろと言うが、投げて何も返ってこない。

(管理者) それが難しいとか、金銭的なものも一つの選択肢であるが、幅広にいろんな手法があるので、そこに絞らずに皆さんと折衝というか、意見交換を進めたい。何らかの返しをすべきであったというのは、先ほど言ったとおりである。こういうふうに来たらどうするかというときに、こちらがどう対応していたかという、どう全体計画がまとまっていくのか全く見えない中で、踏み込んだ回答ができなかったというのが正直なところ。だから具体的な回答が書面でできない、そこにおいて、それならそれとして、地元に戻すというその部分は当然必要だったという話。

(浜区) 全体像として最終的にここは建ちあがるのか。

(管理者) 全体像の話をしてもいいか。

(浜区) 全体像はまだ見えていないのか。

(管理者) こういうような方向でいきたいというのはある程度決まっているが、こちら側の話であるが、建設コストが1.7倍になるので、当初165億円で積算していたものが、282億円に増えた。これをそのま

ま進めてしまうと両市の財政が非常に厳しいものになるということがあり、一旦そのネゴシエーションをもう一度しなさいと、具体的な話に入っていけないので、一旦額を積算し直して、業者と詰めてくれと。ネゴシエーションした結果どれくらいまで圧縮できるのか、圧縮できた額で全体計画のままいけるのかどうかという判断を、今年度中にしないといけない。ただ、全国のごみ焼却場の事例を見ても、高い値段で止めている自治体も結構出てきている。だから、必ず予定どおりの時期に建つという保証がない。議会でもそのような回答をしている。今でもそういう状況であるが、今までどおりに全体計画がガチッと決まっていなかったらといって、皆さんに何も返さないとか、中で検討しているのを共有しなかったら、また余計に時間が経ってしまうので、そこは並行して、やり直しをさせていただきたいというふうに考えている。

(浜区) まだ先が決まってないなら、温水プールだけをとらえて話をすれば、来年ボーリングする必要もないのか。施設が決まるまでは、運営してもいいという捉え方でいいのか。

(局長) 来年5月で一旦閉鎖の予定である。

(浜区) 建設がいつ始まるか分からない、いつ試験掘りするか分からない、この間は従来どおりプールは運営されるという解釈でいいのか。

(局長) 今、尾崎スイミングに指定管理しており契約は5月まで。

(浜区) 指定管理は5月まででも過去には独自で運営していただろう。

(局長) 新工場の着工の時期が延期されるかどうか決まった後、延期されるのであれば、その期間は何らかの対応は必要だと。ただ、指定管理でいくのかどうか。

(浜区) 向こうと天秤にかけているのか。

(局長) 違う。仮に資材高騰などで工事費が上がっているので着工を3年延ばすとなれば、その時にプールをどうしていくかということのをこの年度末までに決めるということ。指定管理がやってくれるのかもわからない。

(浜区) 今年度末というのは12月か3月か。

(管理者) 3月である。

(浜区) プールが閉まるのは5月だろう。すごく時間的に急くのではないか。

(管理者) タイトである。

(浜区) これまでの口頭での折衝の中で、代替え施設はこの清掃工場の外でも結構だと、そういうことも出したこともある。管理者から複合施設云々のことが出ているので、それをこの場で提案の一つとして出していただいて、あと折衝の場に移すということもいい方法ではないかと考えている。そういうボールが投げ掛けられたと受け取って帰ってもいいか。

(副管理者) 当初立てた計画が、様々な状況の中で高騰してきており、そのまま進めるにあたってはいろんな確かめをしないといけないし、両市において予算の確保もしないといけない。そういったところを今最終確認している。その結果、予定どおり進むのであれば、当初のクローズの時期が生きてくるのかもしれないが、そのところのはっきり決まっていないということと、時代に即応したどういった機能を持った施設、地元に対してどういうプラスやマイナスの影響が出るのかどうかということも、しっかりとつかみたいと思っている。

いずれにしてもプールが先にクローズするのだから、その代替えをという話であったが、冒頭で話をしたように個別ということではなく、今申している事情を参酌していただき、新炉建設に当たって全体の中でどういう補償の形を取るのか、検討を進めさせていただきたい。

(浜区) 我々の考え方は、新炉建設は新炉建設である。新炉建設とは別に温水プールとゲートボール場がある。この炉ができた時に温水プールやゲートボール場ができたのではない。最初に清掃工場ができ、次に増設云々が起きた。その増設云々の時に温水プール並びに運動場が出てきた。

だから、新炉建設、それはそれで進めていただいて、地元にも進捗状況を説明していただく必要はあるが、それとは別に温水プール並びにその横にあったゲートボール場の代替措置。これは潰すのは間違いなのだから、それはそれで別途予算を立てていただき、もっとはっきり言えば込みにしなくて、分けて考えてほしい。来年5月にクローズするのだから、そのことだけでも予算化してほしい。

(浜区) 浜区としての主張は、全体計画とは別に考えてほしい。実際に炉ができるのは10年も先の話だから。だがプールに関しては来年の話である。時間軸が全然違うものを一緒に考えてくれというのは、建物の老朽化に応じていつかは出てくる問題だったが、浜区としては降って湧いたようなもの。無くなりますよと一方的に言われて、無くなる代わりにこんなものを建てましょう、これで納得してくださいという話でなく、10年後の全体構想がどうなるかわからないというものと一緒くたに考えてくださいとお願いということで言われたが、浜区としてそのお願いを受けれるかどうか、もう一回考えないといけない。

(浜区) 局長には三つのお願いをした。一つは維持費の問題、二つはプールの代替の件、三つは本体ができるかどうか。この三つの問題を別々に切り離してと最初から話をしている。

(浜区) 浜区がこういう言い方をしているということは、一切市長に伝わっていない。

(局長) まず、46万円の件は前区長にはっきりと断ったはず。できませんと。

(浜区) 何ができない？

(局長) 浜区からの要望では、その46万円を組合から泉南市の一般会計に入れている分を直接浜区に…。

(浜区) なぜ切り離すかと言うと、この46万円は泉南市が受け取っている。ここは払っている。だから今日は言わないが。

(浜区) 今日の話題ではないので問題にしないでおう。

(浜区) 問題は三つある。最初から三つと言っているのに今になって一緒くたに考えてくださいって。それなら最初から言え。

(浜区) 本体は本体の問題。温水プールは温水プールの問題だというふうに、これは問題が違っていると我々はずっと主張してきたところ。是非とも分けて考えていただきたい。

(副管理者) 主張はわかっている。我々のこともまた汲み取っていただきたい。

(浜区) 両市長から一緒くたに考えてくれという話は一切出ていない。

(管理者) ごみ焼却場ができるにあたっていろんな話があって、ごみ焼却施設ができることに対して地元の皆さんに負担をお願いするということで、還元施設としてプールができたわけだろう。

(浜区) 説明の中にも全部資料を送ったと思うが、本体ができる時の補償としてやっていただいたのは、清掃組合に浜区民センターを建てていただいた。建てっぱなしでは困るので、その運営のお金を出すというのが一つだった。また、この地域にはその頃には保育所がなかったの、保育所を作るとというのが二つ目だった。

(管理者) その話は聞いていない。

(局長) その話は関係ない。

(浜区) 市長はどういうふうに聞いているのか。

(管理者) この場所にごみ焼却場ができる、当然のことながら、他の地域に比べて負担をお願いしなければ

ばいけないので、その還元施設としてプールを建てたと。

(浜区) それは違う。

(管理者) だから、こちらはこちらと切り分けて。補償を二つずつとやり続けていくという話になるだろう。こちらの補償とプールの補償を切り分けたとしたら、新設の補償と二つ出てくる。

(浜区) プールができた経過は、ここの本体の増設計画というのが出てきた。

(管理者) その話をしだしたらあれだな…。

(浜区) 経緯についてはここに残っているので見ていただいて…。最初からの把握をしていただきたい。

(管理者) これは、市民に対してかなりオープンでやらないとだめだな。

(浜区) それに関しては、当時の両町長と両議長が議会でも了承を受けてその書面は残っており、浜区のホームページにも載せてある。それぞれの書類があるので、その部分と増設計画が出た。つまり一杯になって、ちょうどこの部分に残灰を埋立てて、とても処理ができなくなったので増設しないといけなくなった。

(浜区) 増設というより増強。

(浜区) それに関して、ではどうするかということで増強計画を認めてくれという経過の中で作られたのが温水プール並びに運動場である。我々はそういう認識を持っており、清掃組合も当然そういう認識を持っていたというのであった。増強計画に伴って住民の福利厚生施設として建てられたものが潰れるから、それを何とかしてということ。本体に関わっての建替えの話は、浜区民センターを建てていただいた、維持管理に関して責任を持ってもらっているという経過があるので、それは本体に関わっての部分であるだろうと。あといろいろとお願いした中では、周辺の環境整備もやるというのが了承され、その一例というのが男里川の入ってくるこちら側に遊歩道が設置されているが、それも最初の還元策として環境整備ということで清掃組合がやっていただいたという経過がある。書面は、また持つて行くので…。

(浜区) 例えば、新規の焼却場についても、令和3年5月の次期ごみ処理施設基礎調査報告書の中において、第4節、「ごみ焼却に伴い発生する排ガス、排水、騒音、振動及び悪臭による周辺への影響が懸念される。」そういうことをはっきり言っている。新工法でも公害を完全に除去することができない旨を自ら確認している。それをしっかりと文書で残しているはず。

先ほどの切り離し云々においても、本体とプールは別問題。新しい物ができたとしても、やはりそういうものが出て不思議ではない。迷惑を掛けないことはできないとはっきり謳っている。

(副管理者) 今、改めて口頭で説明を伺って認識を改めてしたところであるが、いずれにしても今の炉を建てた時と増強したときに関わって、そういうものが形成されてきたということ。そして、今の炉とこれから作る炉というのは、どういう機能で、地元に対して影響を与えるかということは、しっかりと見定めないとはいけなし、マイナスを小さくするものでなくてはならない。

そういったことをしっかりと見定めた上で、一括して協議をしたいと。

(浜区) こんな言い方はおかしいかもしれないが、原子炉はどうか。今まで無害だ、公害を起こすことはない夢の世界で来ていた。原因は津波だったが爆発した。どうなったか。施設がある所が被害を被る。

(副管理者) それは理解している。

(浜区) それはもうやめよう。何度も言うように、温水プール並びにゲートボール場は、増強施設に関わっての部分の地元還元策であったと我々は考えているし、そういう文書が残っているので、よく精査していただいて、この分に関しては、複合的な施設としてのボールの投げかけがあったとして我々は…。

(管理者) いや違う。それは、先ほど言った交渉と折衝という中で、折衝の過程の中でそういう話があったという話。当然のことながら、前区長から金銭的な提案をいただいているので、ここが決まっている訳ではない。こちらから交渉の場で提案したものではない。

(浜区) 前区長の場合でも、例えば金銭的なものもあるというので投げかけられたから。認識が違うのだから言った言わなかったという話になるからやめておこう。どのような形でも、ボールを早く投げかけてほしい。

(浜区) 浜区としての認識は、最初、焼却場が建ったとき、いろんな経緯があったが合意して、これだけのことをしてくれたらOKとなったのが、今回新しく建てると、その時に今までの合意がひっくり返されている気がしている。それはないだろうと。その合意が口頭だけのものなら仕方がない、言った言わないの話になるが、文書として残っている。まず、それを見ていただき、昔からの経緯があるんだなど。それについての判断をいただいた上で、全体構想云々のこともあるが、こちらとして全体構想の中に入れてほしくないのは、10年先の話と来年の話を一緒にくたにするなという話。

(管理者) 仮に一緒にくたにしたとしても、新炉の建設とともにその中にすべて入れ込むのだからという話。

(浜区) 予算を別に立ててくれたらいい。

(管理者) 今、区民である皆さんが、ニーズを知りたいというのはそこにあって、10年先のことを今から言って10年後に建つでは、すごいタイムラグがある。だから、当然のことながら、実際にどういったものが望ましいのかを考えたい。切り分けてというより、総合的にどういう方策があるのかということを考えたいということ。

(副管理者) 10年先、経ってから考えるのではなく、我々もできるだけ早く全体を見て話をさせていただきたいと思う。

(浜区) 全体構想もまだ決まっていないと、万博みたいなものでどんどん増えていくことになるかもしれない、はっきり決まらないう。だから、10年後、13年後、15年後になるかも知れない。その全体の中の予算として、浜区に対してこれだけの予算が付けられるかと言っていたと思う。切り分けて考えてほしいというのは、もともとの合意は三つあった。焼却場本体に対するものと、それを増強したとき、それと作っていただいた浜区民センターに対する維持管理の三つがあった。それが、ひっくり返されているような印象を受ける。

(副管理者) 予算の組み方はまた別として。

(管理者) いずれにしても総合的に考えながら、どういう方策が必要なのかということは、これから水面下で調整させていただきたい。

(浜区) 予算に関しても、温水プール並びに職員の駐車場になっているゲートボール場の部分の代替えということで、先に計画を立てて予算化をしていただきたいという要望である。

(局長) 施設を建てるとなれば、全体計画の中でやりくりすることになる。

(浜区) 敷地内でなくても結構。それもちよっと考えてほしい。

(局長) そこは我々では…。

(浜区) 我々は敷地内に執着しないから。

(浜区) 保育所ができたように最大で浜区内。

(浜区) 浜区からちょっと離れても構わない。

(管理者) いずれにしても、ちゃんとコミュニケーションをとらないと、お互いにとっていい物を作っ

いかないと、変なところで亀裂を生んでしまうと非常にもったいないことになっていくし、非常に時間がかかってしまうことがある。

冒頭で言ったのは、投げ掛けがあった。こちら側はいろんな意思があるのだが、それならそれで何らかの返答を投げてこなかった。そこに関しては非常に申し訳ないと思っている。これからはもう少し織り込んだ話をやっていければ非常にありがたいと思う。

(浜区) 早いことボールを投げてほしい。

(浜区) 我々も何らかの文書でいただかないと、区民に報告しないといけない。

(浜区) 逆の立場になったら言われる。あの時の区長があんなことをやった。それはできないだろう。どこかで妥協しなければいけないのはよく分かる。だが、妥協してくれと言われてどこで妥協するか考えるのはお互い様である。だが、会ってこそできるので。

(管理者) すべてを文書にしたためようとすれば無理がある。

(浜区) それはわかっている。

(管理者) 文書にしたためた部分は、もしかすればぶっきらぼうな文書になるかもしれないが、ちゃんと水面下で話を進めさせていただきたい。

(浜区) 先ほど交渉と折衝と言っていたので、折衝を繰り返していただきたい。折衝では、いくつもボールを投げてください。一つでも二つでも構わないので、とにかくそちら側からボールを投げかけてきてほしいとずっと言っている。

(浜区) 2年前から懇切丁寧に要望書を、前々区長の時から出している。その返答もない。今回、令和5年9月12日にもまた懇切丁寧に要望書を提出し、文書で返答くださいと言っているにもかかわらずない。これはちょっと失礼ではないか。区民に対して説明ができないというところがあるので、十分くみ取っていただいてお願いしたいと思う。

(管理者) それを踏まえて、いただいたものに対してどのように返して。もうすぐそういう区の総会がある…？

(浜区) 理事会がこの日曜日にあるので、その時に報告しないといけない。9月末と期限を切って文書を出してくださいと言っている。その結果を何も出なかったと。お前ら役員は何をやっているんだという形になる。それで今日は、案が出るものだと思って出席したわけである。だが一切出なかったということ。どう説明したらいいのか。

(浜区) 山本管理者から複合的な施設云々というのが語られたというのが記録に残っているの、それ以外にいろいろと…。

(管理者) 例示としてである。

(浜区) 早くボールを投げてくれ。

(事務局) 時間も来ましたので、そろそろ…。

(浜区) 記録は我々に送ってほしい。何も撮っていないので、よろしくお願いします。

《閉会》